

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器を、技術スタッフが  
厳しい目でチェック! 実用性に焦点を当てて報告します。

No.  
114

TSアナライザ

豊島ケーブルネットワーク(株) 技術部 部長 上山裕史  
今回はTSアナライザについて紹介します。

私たちケーブルテレビ局の技術者は、地上デジタル・CATVデジタル(HITS)・デジタルコミCHANの普及で、TS(トランスポート・ストリーム)の内部にも目を光らせる時代になってきました。今回紹介するのは、TSアナライザHACOBEです。

安価でUSBインターフェースにより、ノートPCに接続する可搬性の優れたTSアナライザを本誌2010年4月号で紹介しました。機能は十分ですが、痒いところに手が届くというイメージではありません。日本のトラフィックシム社が製造販売するHACOBEは、日本語メニューで、液晶画面により映像が確認できます。また、部品の不具合に

対してリコールにより交換するなど好感のもてるアフターサービスを展開しています。

外観を写真1に示します。右側に配置されたボタンとロータリエンコーダでメニューの選択を行います。液晶表示器には多くの機能が表示されます。TS解析画面をはじめ映像やビットレートの使用内訳などが表示されます。この表示はメニューにより選択できます。USBメモリを接続出来るので液晶表示器のスクリーンショットを取るこ

とができます。

図1はスクリーンショットの一例です。TSの中のDSM-CC(Digital Storage Media Command and Control)データ放送コンテンツを詳細に表示させた様子です。また、地上デジタル、BS放送、64QAM CATV放送に対応するチューナを内蔵しているため、別にチューナを用意しなくてもこれ一台ですべての放送TSの確認をすることができます。確認する目的や場所に依りてTSアナライザを使い分ける時代になったことを感じます。

このように、今まで信号レベルやMERで管理していたデジタル信号ですが、送出しているさまざまなTSの中身を把握して、より良い管理を目指せるものと考えます。



写真1: TSアナライザHACOBEの外観

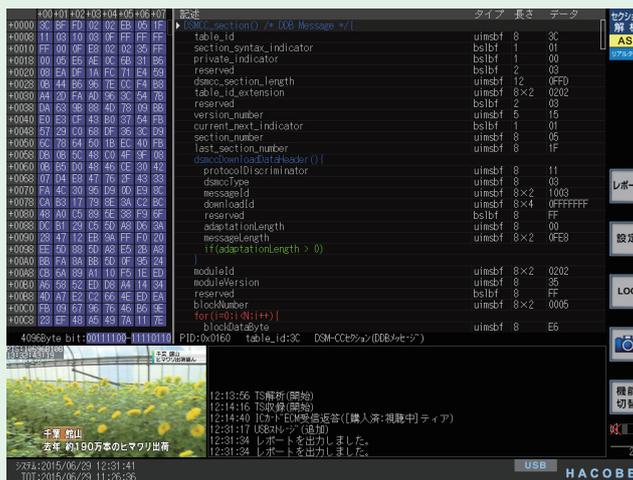


図1: スクリーンショット